



会報 第30号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉山印刷



ご挨拶「歴史に学ぶ」

同窓副会長

菅谷 善六

会員の皆様には、母校へ日頃の御理解と御協力を対し心から感謝を申し上げるとともに、ご壮健にて、それぞれの職役で活躍のことと拝察いたします。

秋元喬朝は、ただやさしいだけでなく、筋の通らないことに対しては厳しく罰した。これは、たとえ自分の子どもでも、「嘘をついて、他人におもねる(他人の機嫌を取って、気に入られようとする)ようなことをしてはならない」と厳しく戒めたことでもよく知られている。喬朝はとくに、「世の中で、利口者はむしろかしこいことをやさしく表現する



ごあいさつ

学校長
大澤 英一

同窓会の皆様には、日頃より母校へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。

お陰さまで、本校の一年間も順調に推移し、年度末を迎えようとしております。

さて、今年度、本校では建物工事が二件実施されました。一つは管理特別教室棟の耐震補強改修工事、あと一つはエアーイフル射撃場の新築工事であります。

耐震工事をを行った管

もむずかしい文章なので、寺社奉行所の役人は誰も読めない。

やむを得ず役人の代表が、奉行の秋元喬朝のところにやってきて弁明書をそのまま差し出した。喬朝はちらりと弁明書を見たが、持ってきた役人にきいた。

「ずいぶんむずかしい文章だな。どういうことがかいてあるのだ?」そうきかれて役人は顔を赤くした。

「正直に申し上げますと、われわれには読めませんでした。みんなでまわし読みをいたしました。結局はわからずじまいでございました。お奉行さまならさぞかしお読みになれるだろうと思って持ってきた」

「おまえたちは正直者だ。が、残念なことに文章がむずかしすぎて私にも読めない。この山伏を呼び出せ」喬朝にそういわれて、役人は山伏を呼び出した。山伏は胸をはっていきなり「おまえは後ろめたいものだ。山伏は真つ青になつた。山伏は牢に入れられた。奉行所の役人たちは、『さすが秋元さまは素晴らしいお奉行さまだ』と

「おまえは後ろめたいものだからこんなむずかしい文章を書いて、われわれをごまかそうとしていた。私は騙されたい。山伏などというものは、民衆の教化に当る責任を持つてゐる。民衆の教化に当る者は、むずかしいことを極力やさしく砕いて教えることが必要だ。にもかかわらず、おまえはいま口で述べたような簡単なことをわざわざ長いむずかしい文章に変えている。これは明らかに、お上をごまかそうとする気持ちがあるからだ、不届き者め! 重い罰を与える」

喬朝に怒鳴りつけられた。そして長い時間かた、収穫祭を十一月二十一日に農場公開と生産物即売を兼ねて行なつたところ、農場全体が多くの来場者で賑わいました。

商業学科(ビジネス会計・情報処理科・総合ビジネス科)は数多い有用な資格取得に励んでおります。現三年生は最後のビジネス会計科及び情報処理科の在籍生となります。二・一年生は両科の教育内容を併せ持つ総合ビジネス科生として歩んでおります。

福祉学科(教育福祉科)は国家試験の介護福祉士資格を目指し、授業及び施設実習に励んでおります。昨年度春の介護福祉士試験の合格者は94%でした(全国福祉科高校の合格率48%、今年度の結果は三月末合格発表のため未だです)。

三年生二二〇名の進路(二月末時点)就職42%、進学47%、在家等11%となっております。このなかで、立命館大学経済学部合格者は全国商業高校推薦枠定員10名に見事選ばれた生徒であります。本校は、創立百周年を間近に迎える高校として、生徒の力を高めつつ、地域に役立つ歩みを続けています。

同窓生皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

同窓生皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。



黄綬褒章受章

昭和十六年度卒
廣田 源太郎

私今般秋の褒章にあたりまして、はからずも黄綬褒章の栄誉に浴し身に余る光栄と感激いたしております。これひとえに永年に亘り皆様から頂きましたご指導ご後援の賜と深く感謝を申し上げます。今後はこの栄誉に恥じることのないよう一層の精進を



叙勲の栄に浴して

元校長
岡本 博

平成十七年春の叙勲に際し、瑞宝小綬章の栄に浴しましたところ、早速学校、同窓会よりご祝詞をいただきましたがとうございました。五月二十三日、中山文部科学大臣より勲記勲章の伝達を受け、引続き皇居に参内し春秋の間において拝謁の栄誉を賜りました。

これも偏に皆様のご指導ご支援の賜と深く感謝申し上げます。この度の受章は教育の仕事ひと筋に約五十年を努めてきた者として感慨深いものがございます。顧みますと昭和二十四年真岡農業高校を振り出しに、宇都宮農業高校、県教委事務局高校教育課、

全寮生活で報徳教育をうけました。今日あるを感謝し最善をつくせの校訓は今尚脳裏にのこります。夏は荒地の開墾で汗をながしたことも遠い思い出です。昭和十六年十二月八日大東亜戦争となったので急に上卒業となりました。同級生のうち八名は軍隊に志願をし農家の後継者は食糧の増産をして銃後を守ることに

の研究実践に生徒たちと取り組んだ当時をなつかしく思い出します。

宇都宮農業高校長時は県産業教育審議会委員、県農政審議会委員、全国農業高校長協会副会長、全国高校長協会常務理事等の役職も務めさせていただきました。

教員定年退職後、平成十三年まで三期十二年真岡市教育委員会教育長として教育行政の仕事に携わり、地元真岡市、芳賀地区の教育に最終の奉仕ができました。

加いました。今回の私の黄綬褒章の功績の主たるものは土地改良事業と云うことです。昭和五十一年より益子町土地改良区が設立されてから三十年間理事長として受益面積四七五ヘクタールの圃場整備事業とその水源として水量約三十万トン

北陵祭に参加して

河間支部長
渡辺 忠雄

私は昭和二十五年三月旧制最後の卒業生です。第二次世界戦争と戦後が学校生活でした。

学校の祭に参加して今の学生の生活の一部を知ることが出来ました。教科書など形ばかりの粗末なものだった戦後、今は恵まれた環境のもとのびのびと活躍しているのを見て、良い時代になったと、つくづく思いました。

私達壮年部では、手打ちそばを出店しました。写真の皆様の協力と多数のお客様のおかげで二百食を完売できました。ほんとにありがとうございます。

表としていただいたものと思っております。改めてお世話になりました皆様心から感謝を申し上げます。今

年間に亘って土地改良事業へ専念出来た事、農の道一筋に歩んだ事が黄綬褒章の職務精励の意味であるとうけたまわり、ここに至るまでの数多くの皆様方に感謝を申しあげ、尚残された益子町土地改良区理事長の任期一杯最善の努力をいたしたいと思っております。わが母校の更なる発展と同窓会の皆様方のご健勝をご祈念してあいさついたします。

北陵祭に参加して

青年部
荒川 普丸

十一月五日に行われた北陵祭では、穏やかな日和の中で、毎年恒例の青年部特製の「焼きそば」を自分たちの手で調理し、販売を行いました。

今年は、青年部副部長君嶋夏樹氏の結婚式の日と重なってしまい数名の先輩役員がいまませんでしたが、先輩達がいらないのは不安でしたが、新しく入ってきた後輩達が一生懸命に焼きそばを作ってくれたのでよかったです。



青年部あいさつ

青年部長

平成十三年度卒

猪野 雄介

平成十六年度四月より同窓会青年部部長に就任しまして、今年度二年目になりました。本年度活動におきましては、同窓会役員の先輩方、事務局の先生方、また同窓生の皆様方には、日頃より、暖かいご指導ご支援を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

常任委員

古川善治 平十三卒

小島勇樹 平十四卒

芦野雄介 平十四卒

関口裕友 平十五卒

阿久津徹 平十五卒

金鋪良昭 平十六卒

矢野貴彰 平十六卒

廣田真人 平十七卒

國母智範 平十七卒

今年は矢板市木幡の内川南部農事サービスセンターに研修に行ってきました。経営内容やこれからの経営方針などを聞きながら施設などを見て頂きました。また、あと二年後には北陵高校も百周年という記念すべき行事を控えております。同窓会青年部としても、私たちの力を総結集してすばらしい記念事業となるよう協力をしていと考えております。母校に対しての情熱と行動力はあるつもりです。

ここで平成十七年度、一緒に会務をして頂いた役員の皆さんを紹介させていただきます。





北陵高校

歴史！ 成果！ 未来！

創立100周年

平成19年度



昭和30年代の総合農場一分散していた本校農場を廃して大野原に農場を集約して総合農場と命名、整理をすゝめた。



思い出と議会活動

昭和四十一年度卒
大田 正 一

同窓生の皆様には、今までお世話になっておりまして感謝にたえません。私は農家の長男として本校に入学し昭和四十一年三月卒業以来四十年が経過しました。

た。しかし永年の栽培で連作障害が発生し現在は契約トマトの作付はなくなっていました。

その後パイプハウスでの冬ニラの栽培にとりくみ地域はニラの産地となりました。品種の改良もあり夏ニラの栽培も行われ、周年出荷体制も整うようになりました。

卒業当時の農業をふりかえって見ますと、米麦を中心とした農業で畑地は陸稲、落花生、麦作、里イモなどでした。天候に大きく影響されやすい契約栽培の加工トマトは、畑作の経営安定を図るため増反増収が進められました。面積は毎年作付が増え、県内でも大きな産地としてトマトが栽培されました。

水田は戦後の食糧不足での国の政策で増反増収され昭和四十年前半畑や山林の開田が実施され技術の向上もあり米の収穫も上がった。農業機械普及にともない米も過剰になり生産調整、転作が実施

され、その後減反政策は三十年以上も続いています。食糧法から食糧法に変わり生産者が需要と供給のバランス、価格の安定や消費者ニーズにに応じて、減農薬栽培やうまい米作りがもたられており食糧は安全、安心、消費者との交流も必要とされています。

その後、PTA活動や土地改良区理事、農業委員、消防団、団長として火災予防運動をはじめ防火防災に三十八年間奉仕することができました。

平成七年四月の統一地方選挙に初当選し今日まで地方の政治にかかわってきました。議員となり市民の代表として、地域の要望や市民の小さな声を行政に反映させながら

福祉の向上市政の発展にとり組んでいます。五月の臨時議会において議長に推挙されました。多くの議員の協力を得て議会の発展はもとより円滑な議会運営にとりくんでいます。

政府は中央から地方の時代、地方分権の進展、少子高齢化社会の進展、一市四町の合併はできませんでした。県は合併進法で推進をしております。真岡市は、第九次市勢発展長期計画十年を策定し基本方針、健康と福祉教育、産業の振興、安全安心の街作り、人と自然が共生する、環境都市作り、市民と協働の街作りを計画しています。

私は市政発展のため努力してまいります。

優良農家紹介

私の農業経営

昭和五十四年度卒
山 田 博 之



私は本校農業科を昭和五十四年に卒業し、県農業短大園芸科に進学卒業後就職しました。

当時私の家では、両親と共に水稲を中心に八桁の収入を農業経営の目標とし、農地の拡大を図りながら一年米三百六十五表の収穫と、裏作として苺十アールを栽培していました。その後毎年米作の減反面積の増加と農産物の輸入の自由化により米の価格が年々さがってきました。それに対して苺は、品種改良が進み

麗紅や女峰、そして現在のところおとめとなり早出しができ大果形で食味のよい品種が開発されてきました。私も徐々に水稲を減らし苺を中心に経営を考へるようになり、始めは十アールだった苺栽培面積を十五アールに、そして三十アールと増反していききました。又、施設面では連棟ハウスの温風暖房機でしたが、低コストで経済効率の良い、単棟ハウスのウォーターカーテンに昭和六十一年に変えました。収穫量は、

麗紅の時は三トンでしたが、女峰では夜冷育苗を導入して、早期取り出荷と長期収穫で四トンに増収しました。現在栽培しているおとめは、さらに炭酸ガスと電照を利用することにより、五トンから六トンの収穫ができるようになりました。

育苗方法も、病虫害の軽減と省力化のために、土耕から高設ナイアガラ育苗を平成七年に設備し、セルトレイで育苗しています。労働面では、以前は家族労働でしたが、収量の増加と価格の高値安定により雇用が可能になりました。現在の経営内容は、自作地で土地改良が施行された水田で、水稲三・二ヘクタールと苺

今後の目標としては、苺の七トン採りによって安定した複合経営の確立と、消費者に喜ばれるような安全で安心な農作物を栽培し提供していきたいと考えています。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

私の未来予想図

昭和六十年度卒
栗 田 秀 登



現在、農業を取り巻く情勢は非常に厳しく...この様な原稿を書くのは学生時代以来、三十年振りでしょう。当時の書き出しもこうでした。いつになれば、農業を取り巻く情勢は右肩上がりの高成長である。と書き出せるのでしようか。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。

豊かな心

PTA会長
鈴木 弘 美



高等学校の三年間は、生徒にとって多様な経験を通して心身共に成長し、自らの人生を豊かにするために力を蓄えるきわめて重要な時期であります。近年では近隣の人間関係の希薄化や家庭における

過保護、放任などにより家庭、地域の教育力がどんどん低下しております。その為には生徒達が地域と学校、PTAと連携しコミュニケーションを取り合うことです。家庭や地域社会において心身の

健全な育成を促す教育力が十分に発揮されず、人との交流や様々な活動、経験を通じて、敬愛や感謝の心、家族や友人への愛情などを培うことが、豊かな人間関係を築くことが難しくなっています。豊かな心をはぐくむことが人格形成の基本として必要があります。一人一人が学ぶことの楽しさを知り基礎的、基本的な知

識、技能や、学ぶ意欲を身に付け、生涯にわたって自ら学び、自らの能力を高め、自己実現を目指すとする意欲、態度や自発的精神を育成することが大切であります。将来の地域や日本を担う子供たちが思いやりのある豊かな人間に育ってほしいと思うのは全ての親の願いであります。

会長としての一年間

生徒会長
竹 腰 友 貴



私が生徒会長になり一年の任期を終えました。この一年間はとても早く感じました。しかし、一つ一つの仕事が充実した一年でもありました。

会長になって始めての仕事であった予餞会では、五月に行われた益子養護学校との交流会では、例年通りカレー作りやトマ

トの収穫などを行いました。この行事を通じて、更に交流を深められたのではないかと思います。六月には体育祭が行われました。ここで特に印象に残っているのは、クラス対抗の大縄飛びです。どのクラスも全員で協力し合いながら頑張っている姿が見られました。

十一月には、一年の中で一番大きな行事である、北陵祭が、「愛、北陵博」のテーマのもと盛大に行われました。毎日放課後

遅くまで実行委員の皆さんと力を合わせ準備を進めてきました。その頑張った結果が出ていたのではないかと思います。最後になりましたが、私はこの生徒会に携わって本当に嬉しく思っています。いろいろな指導くださった諸先生方、生徒会役員の皆さん、そして全生徒の皆さん、本当にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。



その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。

さて、我が家の経営はトマト六三a、水稲二四〇aを主体とした複合経営です。就農当初は、それまで父母が栽培してきたイチゴを、ハウスを増設してやっていました。

その後、トマトハウスのリース事業を受けて現在に至ります。イチゴでもトマトでも、作物を栽培するという事は簡単ではありません。色々と失敗もありました。高単価が望めない今、もう失敗は許されません。天候により生育が左右されるものではないか。と書き出せるのでしようか。



北陵高校
平成19年度

歴史！ 進化！ 未来！

創立100周年



ルーズバーン牛舎…酪農（昭47）

オランダ農業研修に参加して

二年一組 坂本 紗由合

私は、オランダの農業を実際に体験し、将来の農業経営に役立てればと考え、3週間のオランダ派遣農業研修に参加しました。

私が世話になったのは、ザンテングさん一家で、とても明るく、ユーモアのある家族です。家族構成は、ちよっぴりMエビーンに似ていてとても頼りがいがあるお父さん、アルベルトさん。世話好きで、本当の母のようにやさしいヤニーさん。誰にでも気軽に接し

農業クラブ全国大会 家畜審査競技会に出場して

二年一組 井澤 正晴

僕は、第五十六回日本学校農業クラブ連盟全国大会家畜審査競技会肉牛の部に出場しました。競技会場は、岐阜県にあるJFA全農岐阜飛騨家畜流通センターで行われました。

栃木県大会で最優秀賞をいただき、全国大会までの間、県内の肥育農家にいき、牛を見せてもらいながらいろいろアドバイスをお願いし、たくさん勉強しました。

全国大会は、各県の代表者が集まり、レベルが高いと聞いたので、日々の勉強には、自然と力が入りました。
当日は、ものすごい人

農業クラブ全国大会鑑定競技 優秀賞を受賞して

三年二組 川俣 敦史

私は、岐阜県で行われた第五十六回日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技会に出場しました。

校内鑑定競技会で最優秀賞を受賞しましたが、とても全国大会で賞を取れる自信はありませんでした。そこで、校内競技会の後から勉強を始めました。しかし、部活との両立のため勉強がおろそかになってしまっていました。

限られた期間でしたが、今回のオランダ農業派遣で得た経験や知識が、明日からの自分の生活や、将来の夢に役立てればと考えております。

最後にこの研修に参加させてくれた両親をはじめ、いろいろとご指導、ご支援をしてくださった先生にお礼を申し上げます。

そして、何よりもオランダでの生活を共にしてくださったザンテングさん一家には、深く感謝しております。本当にありがとうございました。

大会前日は、新幹線での移動になりましたが、移動中はずっと勉強をしていました。宿舎に着いても深夜まで勉強をしていました。しかし当日は、



家庭クラブ活動を通して

三年六組 鈴木 香織

家庭クラブ役員として活動してきて、二年が経ちました。今振り返ると本当にあっという間の二年間でしたが、沢山の経験ができ、とても充実した時間でした。

昨年、私が家庭クラブ会長に立候補した時、役

平成十七年度 家庭クラブ活動内容

顧問 加藤 洋子

今年度の家庭クラブ活動は、耐震工事もあり、二学期は、やや活動を少なくしましたが、役員生徒の話し合いにより、新しい活動として「進路室前の花壇に、いっぱいの花を咲かせよう」活動を

実施しました。草むしりや水まきをクラブ員で協力し長い間花を咲かすことができました。

家庭クラブ活動は、学校や地域生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動です。それは、身近な問題に気付くことから始まります。環境について学んだら分別ゴミ処理やごみを出さない生活について考える。食物を学んだら郷土料理の調理方法や季節の料理を考え、家庭クラブ活動を通して家庭での食を大切にする心を育てるなど、無限に

今年度実施した内容、これから実施する行事をまとめてみます。

五月 家ク紹介・総会
六月 調理講習会
八月 県連家ク総会
十月 家庭クラブ立会演説会・役員選挙
十一月 調理講習会
十二月 学校祭

学校祭では、家庭クラブ行事紹介やユニセフ募金活動をしました。役員が募金箱を作り校内を歩きました。また、募金をしていた方々に手作りの



校訓

北陵高校

歴史！ 向上！ 未来！

平成19年度

創立100周年

頑張っています

北陵のクラブ活動

国体に参加して

三年二組 日下田 裕 基

私達は、県予選に勝ち国民体育大会へ出場しました。A R 男子剣道・女子日下田・B R 女子大嶋男子が私です。予選は皆それぞれの力を出し切りポイントを取りました。

国民体育大会に出場する事は部員全員の願いでした。北陵は、ここ数年の間、工業高校にうちかち連続出場を果たしています。昨年出場した先輩方に負けたくない事、県の代表で試合に出場するということに心にしまい晴れの国岡山へ向いました。

夢の国体を通して

二年五組 大嶋 祐 果

十月二十三日から岡山県岡山市で行われた岡山国体に出場しました。

初め先生に国体に出場できると言われた時、本当に嬉しかったです。

しかし、嬉しさだけではありません。国体は個人だけでなく総合で天皇杯があります。私はそのポイントに入れるか不安でした。心の中で何度も「強気ていよう」と言い聞かせました。練習の時も点数のアンダーラインを決めて、常に緊張感のあるようにしようとプレッシャーを与えました。それでも、満射(四〇〇点)を撃った日でも大会

かえました。当日はなぜかまったく緊張することはありませんでした。むしろわくわくという今までの感じた事のない何か体が動いていました。予選は599点でトップでした。またその時試合をしていた部員がファイナルに残ったと聞いた喜びがこみ上がって来ました。今まで三年間一緒に練習してきた仲間が結果を出せたことがとても嬉しかったからだとも思います。そしてファイナルが始まりました。見ている人が多く長い時間立っているそんな心境でした。ふと我にかえって見れば、もう終わっていました。結果は一位で優勝しました。結果は一位で優勝

でも後悔はしていません。私は貴重な経験をすることができ、新たな目標もできました。

試合当日、会場内では他の大会よりも雰囲気が違うもので、今までに味わった事のない緊張が出てしまっていました。撃っている最中も大丈夫と何回も言っていた自分を落ち着かせようとしたが、思うように点数は伸びず、納得のいかない結果になってしまいました。試合が終わった後自分本来の力を出すことができなかった悔しい気持ちでした。あんなにも引き金を引く事が怖いとは思いませんでした。国体のレベルの高さを知りました。なにより自分の射撃の未熟さを実感させられた事でした。

日韓大会に参加して

三年二組 苅部 祐 太

私は、宮城県ライフル射撃場で行われた「第二十四回日韓高等学校射撃大会」に参加しました。

私がこの大会に参加出来たのは、茨城県菅野ライフル射撃場で行われた「第三十一回関東高校ライフル射撃選手権大会」に参加し、その結果が全国で三位以内に入れたからです。この大会は名前の通り日本と韓国の高校生で行われる国際大会であり、この大会に参加する事が私の夢でした。参加が決

まった時は日本代表に選ばれたという事と、夢が実現出来たという思いでとても嬉しかったです。また、選ばれたからには頑張りたいという思いで一杯でした。

こうしたい思いがあった大会に出場しましたが、公開練習をしている時、隣で撃っている韓国選手が次から次へと的に当てていたの「凄当たっているよ、どうしよう」と思ってしまった。結果、私は自分のリズムを崩してしまいました。しかし、良く考えてみると、この会場は、数ヶ月前に大会



少人数で出来ない練習もありましたが、部員全員で相談しながら効率のよい練習が行えるようにしています。

しかし、私たちは少人数なので、レギュラー争いなど無く、競争心が欠けていて活気が足りないのが現状です。そして問題点であり課題でもあるので、改善していくにはどんな練習を行うにしようかという事で、一人一人が勝手な行動をしてしまおうとチームが成り立たなくなってしまう。そこで、「一人はみんなのために」という気持ちのために、一人一人がチームに貢献することが出来るように努力しています。私たちは、七人という

バレーボール部

二年五組 石川 友 貴

私たち、バレーボール部は、二年生四名、一年生三名で、顧問の保足先生と鈴木先生のご指導のもと、毎日の練習に励ん

でいます。バレーボールは、チームプレーなので、一人一人が勝手な行動をしてしまおうとチームが成り立たなくなってしまう。そこで、「一人はみんなのために」という気持ちのために、一人一人がチームに貢献することが出来るように努力しています。私たちは、七人という

使用した事もあるし、その時には良い結果を残せた場所もあったので、自分には有利なんだと、自分に言いかけ自信を持たせる事が出来ました。そのため、後半はリズムが戻り自分なりに良い練習が出来ました。次の日の本番は、この練習も含め、今までの練習の成果を出し切りしたいと思いました。

しかし、本番は調子が悪く力を出せなかった自分が悔しかったです。この日は団体戦で翌日は個人戦という二日間に分けて行われる日程で、射撃は個人戦が中心なので「今日は良くなかったが、まだ明日がある。明日こそ」と思っています。

これまで、私たちがやってきた試合の中でも、雰囲気の良い試合で結果が出せた試合がいくつかあります。このように、自分に厳しく、一つ一つの練習を本気で取り組み、自分達が満足できるようにバレーをしていきたいです。

これからの練習では、今まで以上に、活気・笑顔あふれるバレー部にしていきたいと思っています。また、大会では練習の成果を出せるよう一杯頑張りたいと思います。こんなバレー部ですが、これからもよろしくお願ひします。

同窓生の総力を上げ、百周年事業達成しよう！

- 1 記念式典
- 2 記念講演
- 3 ブロンズ像作成
- 4 記念誌・会員名簿作成

現在このような事業が検討されています。

編集後記

今年はトップの写真に東関東吹奏楽コンクール県大会に本校の吹奏楽部が金賞を受賞した写真を掲載しました。

また十九年度に行われる創立百周年のキャンペーン記事を載せました。同窓会一丸となって百周年の祝賀行事を成功させましょう。

編集委員

井澤 誠 館 芳 衛
廣田茂十郎 猪野 正子
猪野雄介 石川 達 大
大根田勝 君嶋 夏 樹

